

# 海洋立国研究会についての 報告

キヤノングローバル戦略研究所

理事、研究主幹

湯原 哲夫

# 海洋立国研究会

## 1. 「海洋技術フォーラム」の活動(2005～)

- 科学技術基本計画、海洋基本法・基本計画、エネルギー基本計画 への提言。
- 将来の危機(資源、エネルギー、環境、安全、権益)の克服には、「海洋の利用と開発」が果たす役割が不可欠。
- 排他的経済水域における経済活動の重要性と海洋産業の技術開発計画の提言

## 2. CIGS 海洋立国研究会の課題

- 海洋国家として海洋立国を目指すためには「現実を直視して、これを克服して行く」ことが不可欠な課題。
- 現実: 軍事的な脅威、脆弱な海洋産業基盤、資源開発力と新産業創出力の不足
- 克服すべき課題と提言すべき課題:
  - ① 新産業創出のプロセスと産業政策による推進の在り方(産官の役割)
  - ② 海洋における軍事力を背景とする、海洋資源開発とその権益の確保(安全保障と国内法整備、海洋開発における国際協力の在り方)
  - ③ 新しい海洋地政学の構築 とその理念に則った海洋立国の推進

## 3. 産業政策の転換

- 「新成長戦略」、「産業構造ビジョン2010」、「エネルギー基本計画」見直し
- 環境エネルギー大国への道、アジア地域における展開、海洋資源エネルギー開発の展開
- 政府の役割の転換、ビジネスモデル(事業開発モデル)の転換(独自な開発—世界標準—認証)、技術開発体制の転換

## 4. 緊迫する資源問題と海底資源開発

- レアアース・レアメタルの中国政府の輸出規制と価格高騰
- 尖閣諸島付近での海上保安庁巡視船と中国漁船の衝突事件
- 東シナ海ガス田「白樺」(日中共同開発事業)への中国側の機材搬入

## 5. 海洋立国研究会とその報告

- 定例研究会(月2回)
- 「新産業創出のプロセス」と「EEZの海底資源開発と安全保障の課題」
- 調査・研究活動の成果と課題を報告
- 海外から専門家の招聘と国際的な対話

